

# 生物多様性に配慮した水田の生物相に関する研究

12108108 袴田 真伍

## 背景

農業生態系がもつ生物保全機能、特に水田生態系が注目されてきた。しかし、近代農業の発展（農薬、基盤整備等）により水田の生物多様性が急速に失われている。

## 調査対象地

・石川丸山谷戸 復元田



## 目的

生態系に配慮した水田の先行事例として石川丸山谷戸の生物調査を行い、生物相を明らかにする。CNES谷戸と比較することで、水田の多様度を評価する。

## 生息している生物

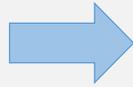


絶滅危惧種のアホウドリ、水路にはホタル等が生息  
湧水を起源としている水路の水を引き、多種多様な生物を育てている。

## 調査対象

植生  
水生生物  
昆虫

水田指標種を3群に分けて調査



## 調査方法

被度、群度、高さ  
区画を設置→種数と個体数を記録

Shannon - Wiener指数やSimpson指数を用いてCNES谷戸と多様度を比較

## 来年度以降の予定



生物環境科学研究センター（CNES）のCNES谷戸（現在は草原）に水田施工予定。今年度の生物調査は来年度以降の研究の予備調査と位置付ける。

石川丸山谷戸に近い環境を作り、不耕起・冬期湛水田が生物相・収量に与える影響を調べる。